平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力をしっかりと身につけた生徒を育成する。
3. 生徒のモチベーションを高め、教職員の技量の高位平準化を図り、ものづくり教育の充実を図る。
4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな人間性・社会性の醸成

(1) 人権感覚豊かな心、社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成

ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。

※遅刻数について500台を目標として努力する。(平成29年度 延べ702)

イ いじめの予防に重点を置き、安心安全な学校づくりに努めるため、学期ごとに生徒に対しアンケートを実施する。

(2) 美化・清掃活動の強化を通して、個々の生徒の規範意識の醸成と情緒の安定を図る。

ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度(平成29年度53%)を2020年度には62%にする。

(3) グローバル人材の育成

ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を醸成する。

※海外の複数の高校との交流を推し進める。

2 確かな学力への取組みと進路保障

(1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。

ア 平成30年度入学生より変更したカリキュラムの趣旨に添い、基礎学力の充実を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。

※外部テスト「基礎力診断テスト」における最下位層の人数を減少させる。

※生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度(平成29年度74%)を2020年度までに82%以上に上げる。

※生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目における肯定度(平成29年度59%)を2020年度には63%以上に上げる。

※確かな学力の一層の定着を図り、就職一次内定率(平成29年度85%)、年度末内定率(平成29年度100%)については維持し、3年後の離職率(平成29年度17%[判明分])を減らすよう努める。

(2) 生徒の自己実現への支援

ア 人権相談部を設置し、教育相談体制、要配慮生徒へのサポート体制の充実をはかる。

3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実

(1) ものづくりのための実践的な技術力の向上に取り組む。

ア 企業が求める資格の調査・精査と資格取得奨励。講習充実。

※資格取得率及び取得に対する積極度向上を図る。検定試験の受験者数(平成29年度1134人)を増やし、その合格率(平成29年度68%)を高める。

(2) ものづくり教育を充実させることで生徒のモチベーションを高め、各種連携を通じてのものづくりへの関心ともものづくりニッポンの担い手としての自覚をもつ生徒を育てる。

ア 成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。

※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数(平成29年度26回)を増やす。

(3) 地域産業連携重点型校として様々な活動を通して、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりをめざすと同時に、ものづくりを通して保護者との連携を強める。

ア 地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。

※地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」をさらに推進する。

※地元企業の協力のもと、地元を中心とした中学生とその保護者に対して地域で学び地域で働くキャリアモデルを示し、地域に根ざした学校づくりをめざす。

イ 保護者-学校が一体となった学校づくりを行う。

※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、本校PTAと連携した事業に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな人間性・社会性の醸成	<p>(1) 人権感覚豊かな心の育成 社会の秩序・ルールを守る規範意識の醸成 ア・人間形成の一助として部活動にもさらに力点 ・人権ホームルームの充実 ・読書活動の推進 ・遅刻指導の徹底推進 ・挨拶の励行</p> <p>イ・いじめの予防に重点</p> <p>(2) 美化・清掃活動を通し安定した情緒醸成 ア 全校的な美化・清掃活動</p> <p>(3) グローバル教育の充実により学校特色化推進 ア 海外高校との積極的交流</p>	<p>(1) ア・新入生オリエンテーション等の機会に、特活部を中心に部活動紹介を実施。部活動部員からの勧誘等で部活動加入を奨励 ・3ヵ年を見通した人権ホームルーム計画の策定・実施 ・「図書部」を活用した、生徒への啓蒙活動活性化で生徒読書量の増加 ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年等連携による早朝登校指導推進 ・生徒会、部活動部員等生徒を主体とした「あいさつ運動」の実施 イ・教員間の情報共有を密にして、いじめの予兆察知するとともに、予兆段階から生活指導上の厳しい指導を実施</p> <p>(2) ア 保健部、学年、生徒会等の連携で美化・清掃活動推進</p> <p>(3) ア 海外高校生受入れ実施</p>	<p>(1) ア・5月末段階の部活動加入率65%をめざす(H29 65%) 働き方改革の一環として複数配置された部活動顧問同士の連携強化を図り、ゆとりを持って部活動を見る体制を確立することによる ・生徒向け学校教育自己診断の「人権教育の充実」肯定的回答75%(H29 72%) ・年間図書館来館者数、貸し出し冊数の増加(H29 2895人、298冊) ・総遅刻数600以下をめざす(H29 702) ・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答50%(H29 45%) イ・学年連絡会議(学年統括首席・学年主任・人権相談部長で毎週開催)での情報交換と、いじめアンケートによるいじめの予兆察知件数5件以上(H29 34件)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度60%(H29 53%)</p> <p>(3) ア 受入れ校数4校以上(H29 4校)</p>	
2 確かな学力への取組みと進路保障	<p>(1) 様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざした授業改善等への取組み ア・基礎学力の充実 ・教員の授業力向上</p> <p>(2) 生徒の自己実現への支援 ア・教育相談体制の充実 ・配慮を要する生徒へのサポート体制の充実</p>	<p>(1) ア・外部テストの全校実施と学力向上への活用 ・教員相互の授業見学、研究協議を授業改善へ反映</p> <p>(2) ア・教育相談体制の充実を図る ・支援教育コーディネーターと保健部の連携を強化し、配慮を要する生徒へのサポート体制の充実を図る イ・就職指導で各クラスへの担当教員配置による責任所在の明確化。加えて面接指導で進路部と学年の連携強化 ・学年 HR 係と進路部との連携強化により望ましい勤労観・職業観を身につける HR 活動を充実</p>	<p>(1) ア・外部テストの結果、1年→2年、2年→3年の経年変化によるD3ゾーンの減少(H29 1年149 2年92 3年97) ・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答80%(H29 74%) ・英検講習参加・受験者5人以上(H29 参加5人、受験4人) ・教員全員が1回以上授業見学を実施(H29 約60%) ・生徒向け学校教育自己診断「授業の工夫」肯定的回答65%(H29 59%)</p> <p>(2) ア・相談室の開室時間増 ・支援教育コーディネーターによる配慮を要する生徒及び保護者への面談を確実に実施。(H29 10回) イ・就職一次内定率80%以上(H29 85%) 年度末の就職率100%維持 ・生徒向け学校教育自己診断「就職・進学」の指導や説明」肯定的回答80%(H29 80%)</p>	
3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実	<p>(1) ものづくり実践的技術力向上 ア 資格取得推奨と講習充実</p> <p>(2) ものづくりへのモチベーション向上と日本のものづくりを担うことへの誇り・自覚・責任感の醸成 ア・キャリア教育の一環としての海外研修 ・成果発表、出展等の機会を充実</p> <p>(3) ものづくりを通じた地域貢献・連携等で地域に根ざした学校づくり推進 ア 地元企業との連携等で学校情報発信強化 イ 保護者のものづくり教育への理解促進等で保護者・学校連携を強化</p>	<p>(1) ア 企業の求める資格の調査・精査と生徒への取得推奨。講習充実</p> <p>(2) ア・台湾修学旅行実施。H30年度1年生も海外修学旅行を継続 ・本校施設・設備、生徒による校内企業「城工房」等学校のインフラ活用</p> <p>(3) ア・企画委員会等で、城工メッセ、生徒会それぞれの担当教員、地元自治会代表等との連携強化による「城工メッセ」活性化。「城工房」その他で製作活動(焼芋器等) ・地元企業と連携した学校説明会を実施 イ 保護者のものづくり教育への理解深化のため生徒の製作物(焼芋器等)をPTA行事等で活用。保護者対象実習体験の引き続き実施</p>	<p>(1) ア 資格試験受験者数1200人以上(H29 1134人)。合格率70%(H29 68%)</p> <p>(2) ア・台湾修学旅行で「現地高校との交流」「世界の日本の技術の体感」実現等。海外修学旅行の継続。 ・「城工房」その他による成果発表の場、産業教育フェア、種々競技会、地域イベント等への参加・実施・出展回数27回以上(H29 26回)</p> <p>(3) ア・「城工メッセ」来場者数250人目標(H29 196人)。 ・地元企業と連携した学校説明会の実施 イ P T A と連携した事業の実施状況</p>	